

平成24年度 中間報告書

2012年4月1日から2012年9月30日まで

MOL
商船三井



「大阪港沖に勢揃い」 切絵：柳原良平

証券コード：9104



株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成24年度(2012年度)中間期(第2四半期累計期間)の業績につきましてご報告申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

武藤 光一

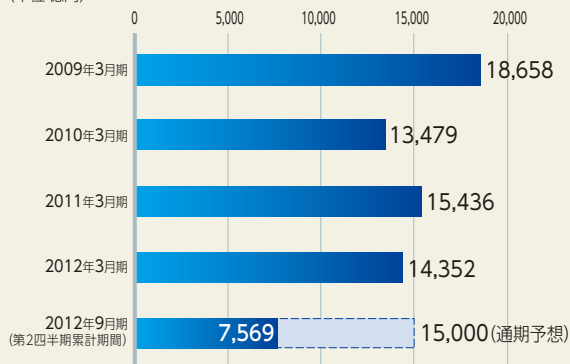
●業績と配当

当中間期の連結業績は、売上高7,569億円、営業損失23億円、経常損失67億円、四半期純損失130億円と、誠に遺憾ではございますが赤字決算となりました。第3四半期以降引き続き損益改善

に尽くす所存でございますが、依然として厳しい事業環境を考慮した上で、通期の連結業績は売上高1兆5,000億円、営業損失130億円、経常損失220億円、当期純損失240億円と、前回発表から下方修正させていただきました。

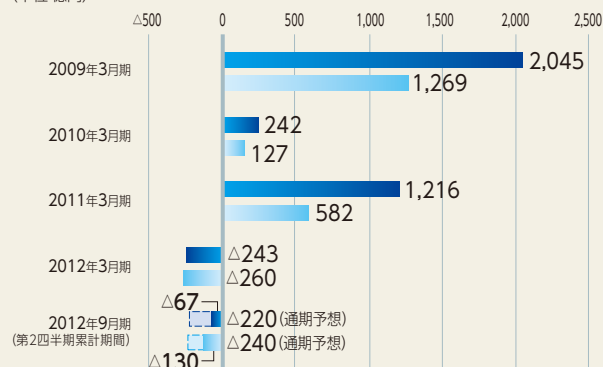
売上高

(単位:億円)



経常損益 / 当期純損益

(単位:億円)



以上の業績を踏まえ、当中間期においては、中間配当を見送らせていただきたいと存じます。また、期末配当金に関しましては、今後の経営環境の推移を見極めた上で決定したいと考えております。

●事業環境

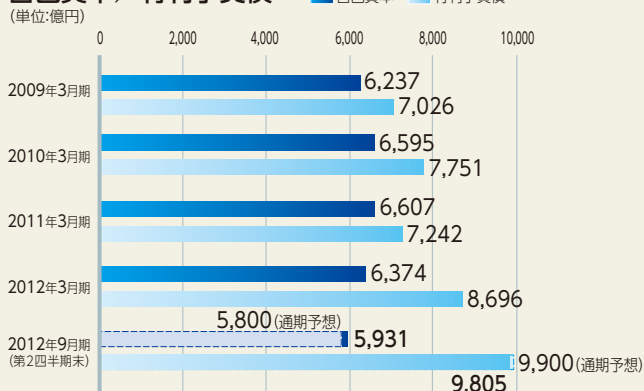
欧州の景気低迷長期化に加え、中国における経済成長鈍化の影響を受け、海運市況は全般に低迷しました。特にドライバルク船については新造船の大量竣工による需給の悪化もあり、歴史的低水準での市況低迷が長期化しています。コンテナ船部門については、世界的アライアンスの再編や運航効率化に努める中で、需給環境には改善が見ら

れるものの、世界景気減速の影響を大きく受け黒字化には至っておりません。

これらに加え、円高・燃料油価格高の長期化、株式相場下落による投資有価証券評価損失計上等も、当中間期損益悪化の要因となりました。

第3四半期以降については、景気動向が依然不透明であることに加え、新造船供給圧力も高い水準で続くことから、厳しい事業環境となることが予想されますが、当社と致しましては、全部門を挙げての合理化努力を進めると同時に、安定利益拡大に向けた事業ポートフォリオへの組み換えによって市況変動への抵抗力を高め、損益の早期改善に努めてまいります。

自己資本／有利子負債



通期の見通し

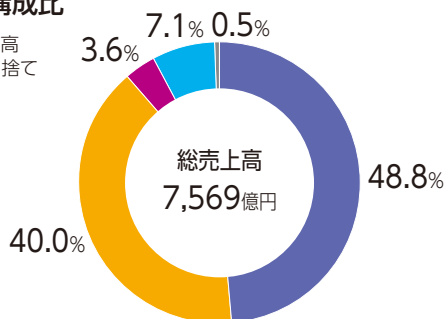
	前回発表 (第1四半期決算発表時点)	今回発表 (第2四半期決算発表時点)	増減額／増減率
売上高	15,500 億円	15,000 億円	△500 億円 / △3.2%
営業損益	160 億円	△130 億円	△290 億円 / —%
経常損益	100 億円	△220 億円	△320 億円 / —%
当期純損益	30 億円	△240 億円	△270 億円 / —%
為替レート	¥80.00/US\$	¥80.00/US\$	¥—/US\$
船舶燃料油価格	US\$630/MT (第3/4四半期前提)	US\$650/MT (第3/4四半期前提)	US\$20/MT

▶事業別売上高

不定期専用船事業	3,692 億円
コンテナ船事業	3,029 億円
フェリー・内航事業	273 億円
関連事業	539 億円
その他	34 億円

▶事業別売上高構成比

※外部顧客に対する売上高
(金額は億円未満を切り捨て
て表示しております。)



※「売上高」「経常損益」は外部顧客に対する売上高、経常損益を表示しております。

不定期専用船事業	ドライバルク船 油送船・LNG船 自動車船等の運航 等
	
売上高	3,692 億円 前年同期比 +4.5%
経常損益	△109 億円 前年同期比 —

<ドライバルク船部門>

新造船の大量竣工が歴史的な高水準で続く中、ドライバルク船のスクラップは増加しているものの、依然、需給バランスの改善が進まず、市況は低迷しました。このような市況環境の下、ケープサイズ船のコールドレイアップ(係船)や、ケープサイズ船及び木材チップ船のスクラップを積極的に進めたものの、大幅な損失を計上しました。

<油送船・LNG船部門>

油送船部門では、原油船及び石油製品船市況は中国の景気減速や欧州経済の不調による荷動きの鈍化等を背景に低迷したことにより、損失を計上しました。LNG船部門では、日本を中心としたアジア地域の安定したLNG需要を背景に市況は堅調に推移し、前年同期比で増益となりました。

<自動車船部門>

日本出し米国向けや豪州向け完成車輸出が堅調に推移したものの、欧州向けは、欧州の景気停滞などの影響により本格的回復には至りませんでした。一方で、三国間輸送の取扱いを強化、欧州出しアジア向け輸送等が堅調に推移したことも寄与し、東日本大震災の影響がありました前年同期比で、損益は大幅に改善しました。

コンテナ船事業	コンテナ船運航 ロジスティクス コンテナターミナル業 等
	
売上高	3,029 億円 前年同期比 +7.5%
経常損益	△26 億円 前年同期比 —

アライアンスの拡充やサービスの合理化を図る中で、需給環境も改善し、運賃修復が進みました。更に減速航海を促進し、コスト削減を強力に推進しました。一方、欧州航路では、需要期の夏場以降荷動きが伸び悩み運賃水準は軟化し、前年同期比で損益は改善したものの、損失を計上しました。

2012

▶6月13日

高機能操船シミュレータを導入

国内で民間企業初、360度の
水平視野と下方視野を備えた
操船シミュレータ



▶6月29日

世界初の新造ハイブリッド自動車船

「EMERALD ACE」が竣工

停泊中ゼロエミッションを
実現



▶7月27日

国土交通大臣から感謝状を受賞

「ふじ丸」による被災地航海等、東日本大震災への
支援活動に対して

▶9月14日

オランダ荷主協会から最優秀船社として

「Best Performing Container Liner Shipping
Company」を受賞



▶9月27日

SRI(社会的責任投資)指標“FTSE4Good
Global Index”及び“Dow Jones
Sustainability Index(DJSI)”に継続採用

フェリー・内航事業

フェリー 内航海運業 等



売上高	273 億円	前年 同期比	+8.9 %
経常損益	7 億円	前年 同期比	—

フェリー事業については、前年度、東日本大震災の影響を受けた北海道航路が、今年度は正常化したことにより、大幅に損益が改善しました。内航事業については、引き続きエネルギー輸送関連が好調を維持し、前年同期を上回る損益を確保しました。フェリー・内航事業セグメント全体では、前年同期比で損益は大幅に改善しました。

関連事業

不動産事業 客船事業 曳船業 等



売上高	539 億円	前年 同期比	+2.0 %
経常損益	57 億円	前年 同期比	+21.8 %

不動産事業については、主要子会社であるダイビル(株)が既存賃貸オフィスで高い稼働率を維持し、堅調な業績を維持しました。客船事業については、目標の集客数に届かず、損失を計上しました。関連事業全体では前年同期比で増益となりました。

その他

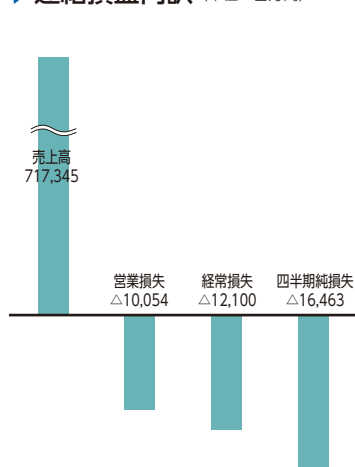
船舶管理業 等



売上高	34 億円	前年 同期比	△14.5 %
経常損益	9 億円	前年 同期比	△8.7 %

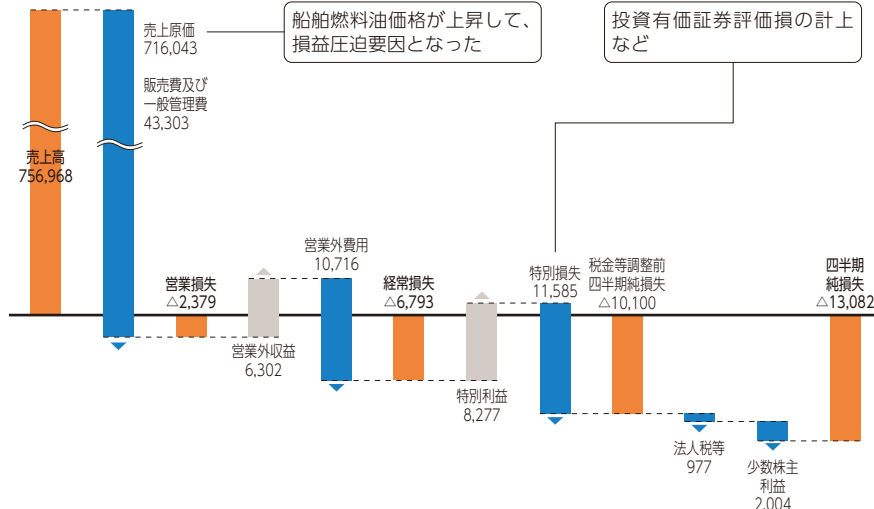
主にコストセンターであるその他の事業には、船舶運航業、船舶管理業、貸船業、金融業、造船業等がありますが、前年同期比で減益となりました。

▶ 連結損益内訳 (単位：百万円)



前第2四半期累計期間

(自2011年4月1日 至2011年9月30日)

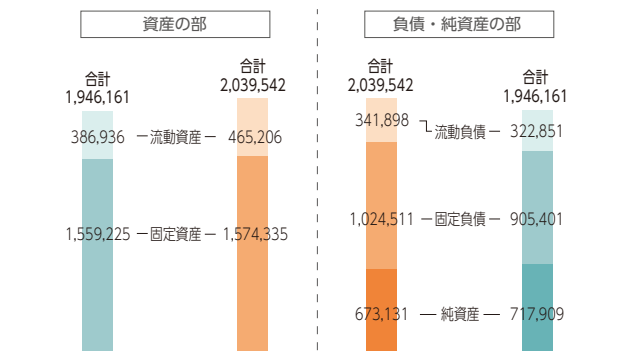


当第2四半期累計期間

(自2012年4月1日 至2012年9月30日)

▶ 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)

総資産は、前期末に比べ、933億円増加し、2兆395億円となりました。これは主に竣工による船舶の増加、その他流動資産の増加などがあった一方、時価の下落による投資有価証券の減少によるものです。



前期末

(2012年3月31日現在)

当第2四半期末

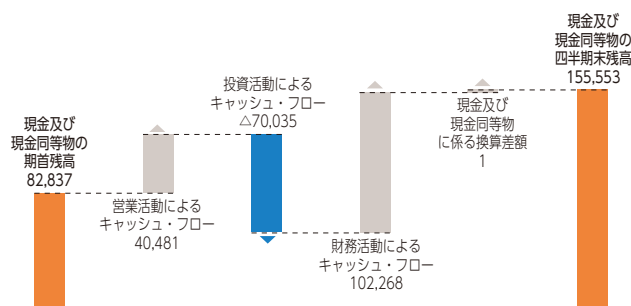
(2012年9月30日現在)

前期末

(2012年3月31日現在)

▶ 連結キャッシュ・フローの概要 (単位：百万円)

現金及び現金同等物の四半期末残高は、727億円増加し、1,555億円となりました。



当第2四半期累計期間

(自2012年4月1日 至2012年9月30日)

▶ **会社概要** (2012年9月30日現在)

商号	株式会社 商船三井 (証券コード：9104) Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.
本社・本店	〒105-8688 東京都港区虎ノ門二丁目1番1号
資本金	65,400,351,028円
従業員	938人 (陸上647人 海上291人)
支店	名古屋・関西・九州
事務所	広島

海外現地法人

米国、メキシコ、パナマ、ブラジル、チリ、ペルー、英国、ドイツ、イタリア、オーストリア、オランダ、ベルギー、フランス、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ポーランド、レバノン、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア、南アフリカ、中国、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、カンボジア、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、インド、パキスタン、スリランカ、アラブ首長国連邦、カタール、オマーン、オーストラリア、ニュージーランド

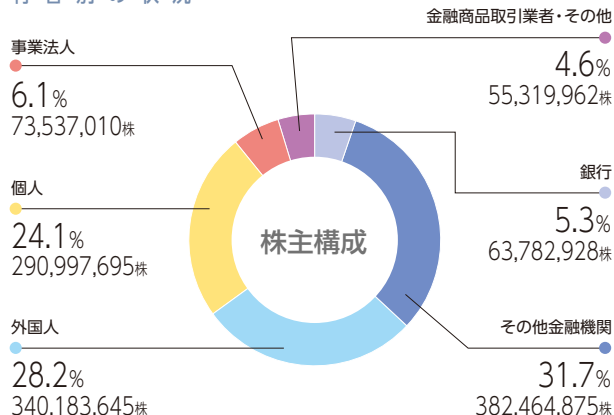
グループ会社
(連結子会社)

341社/従業員 9,451人

▶ **株式の状況** (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数	3,154,000,000株
発行済株式の総数	1,206,286,115株

所有者別の状況



▶ **役員** (2012年9月30日現在)

取締役	
代表取締役 取締役会長	芦田 昭 充
会長執行役員	
代表取締役 社長執行役員	武藤 光 一
代表取締役 副社長執行役員	穴戸 敏 孝
取締役 専務執行役員	安岡 正文
取締役 専務執行役員	渡辺 律 夫
取締役 常務執行役員	青砥 修 吾
取締役	* 小村 武
取締役	* 榊原 定 征
取締役	* 松島 正 之

監査役	
常勤監査役	成田 純 一
常勤監査役	津田 昌 明
監査役	** 飯島 澄 雄
監査役	** 伊丹 敬 之

*は社外取締役
**は社外監査役

執行役員	
専務執行役員	佐藤 和 弘
専務執行役員	平塚 惣 一
専務執行役員	倉内 隆
常務執行役員	山口 誠
常務執行役員	永田 健 一
常務執行役員	池田 潤一郎
常務執行役員	田邊 昌 宏
常務執行役員	高橋 静 夫
常務執行役員	吉田 清 隆
常務執行役員	八田 宏 和
常務執行役員	橋本 剛
常務執行役員	西尾 哲 郎
執行役員	中井 和 則
執行役員	根本 正 昭
執行役員	福本 博 行
執行役員	小西 俊 哉
執行役員	吉田 毅
執行役員	丸山 卓
執行役員	小野 晃 彦
執行役員	井上 孝 昭
執行役員	園部 俊 行
執行役員	川 越 美 一

より詳細な財務情報をご希望の方は、
当社ホームページ「IR情報」
に掲載している決算短信をご利用ください。

商船三井 IR情報

検索

<http://www.mol.co.jp/ir-j/index.html>



▶株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日		
期末配当金 受領株主確定日	毎年3月31日	中間配当金 受領株主確定日	毎年9月30日
上場金融商品取引所	東京・大阪・名古屋・福岡の各証券取引所		
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711		
公告の方法	当社ホームページに掲載します。(URL[アドレス]は以下の通りです) http://www.mol.co.jp/ 但し、事故、その他やむを得ない事由によりホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載します。		

▶株式に関するお手続きについて

口座の区分	お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
① 特別口座	<ul style="list-style-type: none"> 特別口座から一般口座への振替請求 単元未満株式の買取(買増)請求 住所・氏名等のご変更 特別口座の残高照会 配当金の受領方法の指定(※) 	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711 [手続き書類のご請求方法] ○音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
② 証券口座・ 特別口座 共有	<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
③ 証券口座	上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

(※) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として、株式数比例配分方式はお選びいただけません。



M O L Mitsui O.S.K. Lines

株主優待制度のご案内

当社株主の皆様へ、「にっぽん丸」へのご優待券を年2回(6月下旬、11月下旬)送付しております。当社株主の皆様におかれましては、この機会にご優待券をご利用の上、にっぽん丸でゆったりとくつろぐ船旅をお楽しみいただければ幸いです。

9月30日現在のご所有株式数	ご優待券枚数
1,000株～4,999株	2枚
5,000株～9,999株	4枚
10,000株以上	6枚

(有効期間：2013年1月1日～2013年12月31日)

1クルーズお一人様2枚まで「ご優待券」をご利用いただけます。

●お一人様1枚ご利用の場合、旅行代金を10%割引させていただきます(但し、30日以上クルーズについては3%割引)。

●お一人様2枚ご利用の場合、旅行代金を20%割引させていただきます(但し、30日以上クルーズについては6%割引)。

▶他の優待割引制度との併用はできません。但し、熟年割引、ファミリー割引、トリプルキャンペーン、ダブル乗船キャンペーンとの併用は可能です。

▶「にっぽん丸」クルーズにつきましては、次の商船三井客船株式会社のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponmaru.jp>

☎ 0120-791-211

携帯・PHSからは下記番号におかけください。

TEL: 03-5114-5280 (受付時間/月～金 9:30～17:00)

